

同推協だより

No.146号

2026年7月発行

神前地区同和教育推進協議会

Email:kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp



☆ 2026年度同推協総会が5月8日（金）に開催されました！

当日は人権フェスタかんざき拡大実行委員会の終了後に総会を開催しました。2025年度の活動報告と総括後に、新年度の活動方針及び事業計画案等が承認されました。同推協は設立以来、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を目指し、神前地区住民の人権意識の高揚をはかるとともに、差別のない明るく住みよい・住みたいまちづくりに継続して取り組んでいます。今年度も人権の学びを通して、自分自身を振り返りながら仲間づくりに努めてまいります。

2026年度同推協役員（専門部副部長・書記不含）

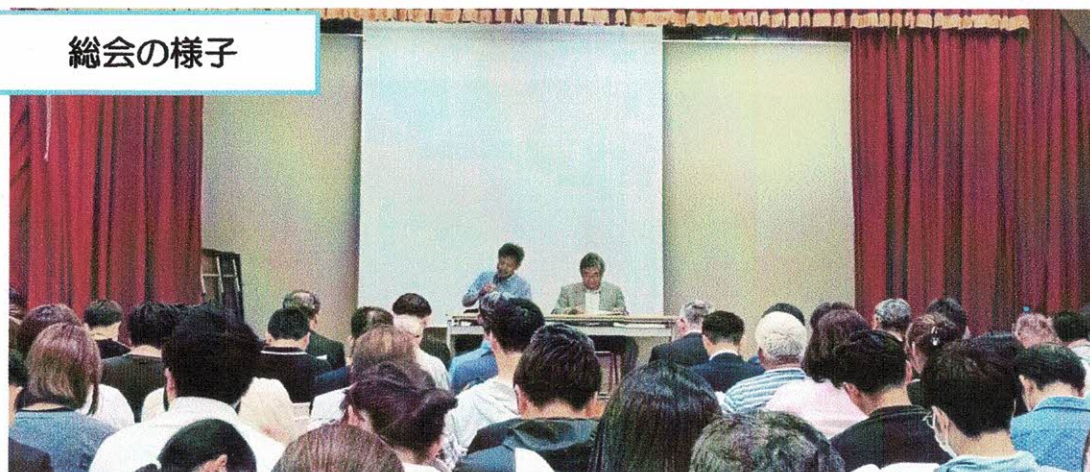
【新会長の思い】

懇談会などで時々聞く言葉です。「今はもう差別とか聞いたことはないし、自分も差別はしていない」本当にそうでしょうか。自分では気づかずに差別発言や行動をとっていることはないでしょうか。自分の「ものさし」では差別しているつもりはなくても、人によって「ものさし」の基準は異なります。聞いた人が差別されていると感じる言動が有ると思います。自分の「ものさし」を見直し、「これって差別なんじゃないかな」と感じる人が多くなれば人権問題もなくなっていくのではないかと思います。同推協も懇談会をはじめいろいろな行事を通して、人権についての皆さんの感性を高めればと思います。ぜひ積極的にご参加ください。

【企画部部長の思い】

神前に来て50年余。当時の同推協活動は部落差別の話し合いが多かった。ここ数年は相手に対する考えや接し方、自分に対する心の持ち方考え方の話し合いが多くなっています。同推協活動に対する理解は年々進んできていますが、まだまだ避けられているというか、関心の薄い存在になっている感があります。時の流れに逆らえないけれど、無くしたいけれど無くならない差別（矛盾）。同推協活動を地道に根気よく少しずつでも輪を広げ、前向きに進める様取り組みたいと思います。

総会の様子



～ 総会つづき ～

【研修啓発部部長の思い】

今年度も研修啓発部部長を務めさせていただきます。昨年度に引き続き、部員の皆さんと共に一年間頑張っていきたいと思います。さて今年度の夏の研修テーマは「善意の裏側にある思い込み『良かれと思って』」です。自分が『よかれと思って』していることは本当に相手にとって『よい』ことなのでしょうか？善意と思っているからこそ、気づかないことあるのではないのでしょうか？夏の研修で各団体・地域の皆さんとお話できるのを部員一同楽しみにしています。

【広報部部員の思い】

同推協だよりを通して地域住民の方々に人権に関する情報提供や地域の問題点を示し一緒に考える、話題提供を行いたいと思っています。また住民の皆様方からの情報（皆さんが他の人にも知って欲しい、考えて欲しいことなどを）提供いただいて、皆んなで考える場づくりに役立てればと考えています。読んで役立った、また読みたいたいと思っただけの同推協だよりを、目指しますのでご協力お願いします。

第24回人権フェスタかんざきが開催されました！！

6月14日（日）午後 神前小学校体育館にて地区三大行事の一つである、人権フェスタかんざきが開催されました。大阪八尾市の人権協会より土田光子さんを講師に迎え200名を超える参加者と共に『自分を解放するための人権の学び』についての講演を聞きました。



講演会の様子



人権の勉強をなぜするの？「加差別」の現実、部落問題学習を中心に据えることの意味や差別の構造について、分かりやすく話を頂きました。特に他の人からの情報を鵜呑みにしたり、自分の決めつけや思い込みで即断せず真偽を確認すること、責任の持てないことは、他の人に伝えないことなど、差別に繋がるまでに止める力を多くの人が持つことが、差別を無くすことになるということが印象に残りました。差別に繋がる例え話「マンボウがクラゲに言いました「ナマズとは遊ばない方がいい、一緒に帰ろうと声をかけたのに無視された」それを聞いたクラゲは「わかった、これからは遊ぶのをやめる」クラゲは次にタコに言いました「ナマズとは遊ばないほうがいいよ。無視されるから」タコはどうしてそうなったか、マンボウとナマズに確認しました。ナマズは気づかず呼ばれたのは空耳と思ったとのこと。この話から自分自身はクラゲかタコかマンボウだったのかを振り返り、差別を止めるにはどうするかを考えました。

人権フェスタかんざき 参加者の声

★アンケートの集計結果から 一部を転載させて頂きました

☆今年初めて参加しました。地域の人々が集まって皆で準備し、このような人を講師に招こう・学ぼうと主体的に動いていることが本当に素敵です。人権で金儲けはできない、人権なんてしても意味がないと言ってしまう人にはなりたくないし、そのような損得勘定で物事を測りたくはないです。



思い込みから始まる差別とそれを止める確認の必要性について
人の行動をマンボウ・クラゲ・タコ・ナマズに例えてのお話

☆人権教育を進める意義について身近な状況を踏まえたお話で大変わかりやすかったです。いわゆる道徳心（やさしさ・おもいやり）で解決すべきでない問題を、自分を含めた周りの人、特に子どもたちどのように問題意識をもたせるかが重要だと感じた。日々、人権感覚を高め問題解決する人間になりたい。

☆聞きやすく、心にすっと入ってきて、改めて自分を振り返る機会になりました。身近なところに差別がある。自分の中にある、ということに心を留めて、これからも生きていこうと思います。

☆道徳教育と人権教育は違うということを考えさせられました。学校教育で、この領域の違いをしっかりと認識して取り組んでいかなければならないと感じました。

☆部落問題学習が、一人ひとりの生き方を変えていくことにつながることで、差別解消の取り組みは「思いやり」「やさしさ」育成ではなく「社会の構造を変えてみんなが生きやすくする」ことにつながるものだということを、多くの人と共有したい気持ちになりました。

☆人権を学ぶことは自分の人生をさらに豊かにできるものだ、今日の講演会を聞いて改めて感じました。学ぶことをやめないことが、自分の中では差別をなくす行動だと思い取り組んでいます。私の価値観が子どもたちに繋がっていることを意識し、家庭でもこども園でも差別しない。跳ね返せる子どもたちを育てていきたいです。ありがとうございました。

今回参加できなかった皆さんも、次回は是非ご参加ください！！

差別の構造の説明（下記の図）



チョットだけ 一緒に考えてみませんか!!

最近の出来事です。妻の実家の倉庫を解体していた時に玄関前から、作業している私を小学校2、3年生位の知らない女の子がスマホで撮影し始めました。何の目的で撮影しているのかは不明でしたが、あまりいい気持ちではありませんでした。倉庫内の作業で顔を見づらい様にしていると、その子は玄関より屋敷内により深く入って来ました。明らかに顔が分かる位置で撮りたいと思っている様でした（その様子は大人のユーチューバーか、インフルエンサーが事故現場を撮影をしていることの真似か？）保護者と思われる大人も近くに居ましたが、自身のスマホを見ていて、子どもに注意する様な姿は見られませんでした。その時の私は「その動画を何に使うのか」「SNSにアップ？」など相手が子どもとはいえ、微妙に不安を感じてしまいました。なかなかやめようとしないので「何をしているの」と声を掛けたら、そそくさとその場を離れて行きました。このことでスマホ等で無断で何気なく撮影することにより、撮影される側が抱く恐怖心や不安感の大きさに気づくことができました。裁判にもなっていますが被差別部落を撮影した動画をネット上に晒す人間が現在もいます。晒される側は何も後ろめたいことは無くても言いようのない不安感にさいなまれます。この不合理を許してはいけなく強く思いました。また子どもたちには、無断で他人を撮影してはいけないことやネットに上げてはいけないこと（肖像権・プライバシーの侵害）、無断で他人の敷地に入ってはいけないこと（不法侵入）など、やっていいことと、やってはいけないことを正しく教える必要が有ると思いました。（広報部 近藤記）

～ フィールドワーク催行決定！！ ～

日時 : 2026年9月26日(日)
訪問先 : 京都府宇治市 ウトロ平和祈念館・宇治平等院
詳しくは7月下旬の市民センターの『お知らせかんざき』の回覧をご覧ください。



同推協では常時啓発委員（仲間として活動して頂く方）を募集しています！
【問い合わせ先】神前市民センター内 団体事務局 TEL・fax 327-1501(受付午後)
Email : kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp